

**ABEST21 理事長報告**

=====

- ・ 2月 08 日、認証評価 Peer Review Team Chair 会議に出席
- ・ 2月 09 日、「MBA 連携プログラム」運営委員会に出席
- ・ 2月 16 日、インドネシア・インドネシア大学及び国家認証評価局を訪問
- ・ 2月 18 日、インドネシア・ブラウィジャヤ大学を訪問
- ・ 2月 22 日、ABEST21 経営会議に出席
- ・ 2月 23 日、第 4 回「マネジメント人材育成協議会」に出席
- ・ 2月 25 日、「MBA 連携プログラム」FD 委員会に出席
- ・ 2月 26 日、認証評価「申立意見調整委員会」に出席

**ABEST21 認証評価ニュース**

=====

**・インドネシアのブラウィジャヤ大学 (Universitas Brawijaya) オリエンテーション**

2010 年 2 月 18 日 (木)、インドネシアのマロン (Malang) 市に設置されている国立大学であるブラウィジャヤ大学経済学部 (Faculty of Economics) を訪問し、ABEST21 の認証評価についてのオリエンテーションを実施してきました。ブラウィジャヤ大学経済学部は、この度、ABEST21 の認証評価の受審申請をされましたので、ABEST21 の認証評価基準の解説と認証評価プロセスを説明した後、大学関係者と意見交換をしてきました。先のマレーシアのマネジメント科学大学とは異なり、ブラウィジャヤ大学経済学部は、経済学科、マネジメント学科及び会計学科の三学科から構成される経済学部の認証評価となり、インドネシアにおける ABEST21 認証評価のモデルとなるために丁寧に対応していきたいと考えています。



**・インドネシア National Accreditation Board の訪問**

2010 年 2 月 16 日 (火)、インドネシア・ジャカルタの National Accreditation Board を訪問し、インドネシアにおける大学の認証評価の制度と評価方法についての説明をうけてきました。インドネシアでは評価項目毎のチェックリストに基づいた数量的な評価で行われ、PDCA サイクルを稼働させての質の維持向上を図る視点はみられませんでした。評価項目は大体において ABEST21 の評価項目と同じであったので、ABEST21 がブラウィジャヤ大学経済学部の認証評価を行うことには大きな問題はないと考えます。ABEST21 が教育課程の質の改善を推進していく評価を重視していることに大きな相違が見られました。



**ABEST21 ニュース**

=====

**・インドネシア・インドネシア大学訪問**

2010 年 2 月 16 日 (火)、インドネシアのジャカルタ市の郊外に位置するインドネシア大学経

済学部を訪問しました。インドネシア大学経済学部は ABEST21 の会員であり、ABEST21 の認証評価受審に前向きな検討が進められており、Somantri 学長及び Firmanzah 学部長と面談し、ABEST21 の認証評価についての理解を求めてきました。

#### ・マネジメントセミナーの開催

2010年2月13日(土)、20日(土)及び2月27日(土)の3週にわたり一日2回セッションで計6回のセッションが「南青山会館」にて開かれました(受講料は無料)。講師に古谷昇(こたにのぼる)氏を迎えました。小谷氏は、東京大学工学部卒、東京大学大学院工学系研究科修士課程修了、そしてスタンフォード大学大学院修士課程修了の後、株式会社ポストンコンサルティンググループ(1981年~2000年)及び株式会社ドリームインキュベータ(2000年~2005年)での勤務を経て、2005年3月に個人事務所である有限会社ピークルを設立され活躍されています。



本セミナーは、先ず「中堅幹部と経営幹部の違い」において、中堅幹部と経営幹部の役割期待、行動、思考方法等の違いが明らかにされ、経営者に必要とされる能力が必ずしも中堅幹部に期待される能力の延長線上に無いということがしめされました。次に、「企業変革への仕掛け」において、企業変革にどのような仕掛けが必要で、変革を成し遂げた企業の事例についてその仕掛けが示されました。そして、最後に「リーダーシップと経営者の特性」において、経営者特有の思考方法や行動の理解によって経営者の職務の重さ、決断の難しさ、悩み等が実証的に示され、必要とされるリーダーシップのあり方が議論されました。

### 「マネジメント人材育成協議会」ニュース

=====

#### ・第4回「マネジメント人材育成協議会」の開催

2010年2月23日(火)、アイビー・ホールで第4回「マネジメント人材育成協議会」が開催されました。第4回は、文部科学省側からの報告が行われ、浅野敦行氏(高等教育局専門教育課専門職大学院室長)より専門職大学院の諸問題についての報告がなされました。ビジネススクール側では教員の研究機会の確保が問題であり、特に教員が博士課程の研究指導を兼務することの必要性についての問題提起がなされました。一方、企業側からの現在のわが国のビジネススクールの教育に対する関心度は低く、ビジネススクール側にとっては厳しい現実が明らかになったようです。



以上